

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ
A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【別紙1－加算配付用】

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード 742696)

※校園コードを入力してください。

学校名 矢田西中学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

取組に対する評価状況
学校関係者による評価実施済

1 配付額 3,646,400 円 → 決算額 3,568,981 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

平成30年度の大阪府中学生チャレンジテストでは、2・3年生では国語・社会・数学・英語で市平均を下回ったが、理科は府平均を上回った。1年生では3教科すべてで市平均を下回った。標準化得点をみると、3年生は同一母集団で比較すると88.6→89.6→91.0と年々上昇させ、2年生も93.8→96.3と上げている。これまでの取り組みで徐々にではあるが学習効果を上げている。
一方で、家庭学習に関しては課題が残るため、生徒一人ひとりの状況に応じた学力向上に努め、学校で自ら学ぶ力を身につけさせる必要がある。さらに、ICT活用を図りながら、すべての教科において、話し合い活動を展開し「主体的・対話的な深い学び」につなげるため、ICT機器(プロジェクタ、大型モニター等)を常設できる教室が必要である。
そこで、本加算配布を活用することで、ICT活用・グループ活動・自主学習ができるスペースとして、LL教室を学習センターとして再構築するとともに、各学年の学習室(空き教室)、図書室の充実を図る。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ②校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答を80%以上にする。 ③校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ④校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習(予習)をしていますか」の設問で前年度より向上させる。	達成
目標に対する達成状況(取組完了時) ①中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、3年5教科は2.1ポイント向上したが、2年3教科は0.3ポイント下がった。 ②校内生徒アンケートでの「授業がわかりやすい」の設問で肯定的回答は90.8%で達成。 ③校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は前年度から10.3ポイント向上した。 ④校内生徒アンケートでの「家で学校の授業の復習(予習)をしていますか」の設問で前年度より9.8ポイント向上した。	B

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】
放課後学習や長期休業期間の補充・チャレンジ学習を実施し、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に努める。
【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】
【英語科】各学年ともに週2回以上ICTを活用した授業を展開し、帯活動としてListeningテストと小テストを週2回以上実施する。2・3年生においては長文問題を意識した「読みトレ」を2年生500分、3年生1000分取り組む。
【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】
ICTを活用した教育を推進する。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

・大阪府の中学生チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度を上回る。 ・大阪市英語力調査(英検1BA)における中学校卒業段階における英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を35%以上にする。 ・全教科・全教員がICT機器を活用した授業を行う。 ・校内アンケートでの「家で復習(予習)をしていますか」の肯定的回答を、昨年度51.7%より5ポイント増加させる。	達成
指標に対する達成状況(取組完了時) ・大阪府の中学生チャレンジテストにおける各教科の平均正答率で、前年度より3年+0.05、2年-0.12、1年+0.02であった。 ・大阪市英語力調査(英検1BA)における中学校卒業段階における英検3級以上の英語力を有する生徒の割合は47.2%で達成。 ・全教科・全教員がICT機器を活用した授業を行った。 ・校内アンケートでの「家で復習(予習)をしていますか」の肯定的回答を、昨年度51.7%より9.8ポイント増加した。	

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入手続き		I C T機器を使った授業展開、放課後等の自主学習活用						
効果検証				3年大阪市統一テスト		校内アンケート			
				英検 I B A		1・2年チャレンジテスト			
	I C T活用			中間検証		最終検証			

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校 園 コー ド 742696)
学 校 名 矢 田 西 中 学 校

7. 取組内容・予算内訳

(1)取組内容【施策番号 施策名】		委員会使用欄	達成
【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 放課後学習や長期休業期間の補充・チャレンジ学習を実施し、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上に努める。 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 各学年とともに週2回以上ICTを活用した英語の授業を展開し、帯活動としてListeningテストと小テストを週2回以上実施する。2・3年生においては長文問題を意識した「読みトレ」を2年生50日分、3年生100日分取り組む。 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 ICTを活用した教育を推進する。			B
予算内訳 ・学習機の購入 11-1 @15,000×50台=750,000 ・学習イスの購入 11-1 @10,000×50台=500,000 ・ホワイトボード衝立の購入 11-1 @45,000×8台=360,000 ・個別ブース機の購入 11-1 @14,000×20台=280,000 ・書架の購入 11-1 @20,000×6台=120,000 ・ワイヤレスマイクの購入 11-1 @28,000 ・スピーカーの購入 11-1 @18,500×2台=37,000 消耗品費計 2,075,000円 ・電子黒板機能付大型モニター 18-2 @600,000 ・ミキサーアンプの購入 18-2 @71,400 ・ワイヤレス受信機の購入 18-2 @100,000 校用器具費計 771,400円 ・LL機器撤去 13 @800,000 委託料計 800,000円			
期待される効果 学習センター（旧LL教室）をICT機器、タブレット端末が常設しており、かつ、話し合いや発表などが行いやすい環境にすることで、全教科・全教員がICT機器を活用しやすくし、主体的・対話的な深い学びの視点で授業改善を図ることが期待でき、学力の向上につなげる。 学習センター（旧LL教室）の一部や空き教室、図書室に個別ブース機を入れ、書架に学習教材や進路資料等を配置し、自主学習できる環境を整えることで、自学自習の習慣を身につけさせ、家庭学習習慣の定着につなげる。			

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	購入手続き		ICT機器を使った授業展開、放課後等の自主学習活用						
効果検証	授業アンケート①		英検I B A 大阪市統一テスト 中間検証		1.2年チャレンジテスト 校内アンケート 授業アンケート②		最終検証		

(3) 取組内容に対する中間報告

- ☐ スケジュールどおり実施できている。
☒ スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
☐ スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳	
・オフィスチェア（テーブル付）の購入	@ 24,970 × 48 = 1,198,560
・オフィステーブルの購入	@ 21,560 × 10 = 215,600
・スタンドボードの購入	@ 24,890 × 8 = 199,120
・ホワイトボードの購入	@ 54,267 × 1 = 54,267

・ブースデスクの購入	@	18,884 × 20 =	377,674
・書庫の購入	@	77,000 × 2 =	154,000
・レターケースの購入	@	44,660 × 1 =	44,660
・マガジンラックの購入	@	42,130 × 1 =	42,130
・ワイヤレスマイクの購入	@	33,000 × 1 =	33,000
・ワイヤレスアンテナの購入	@	16,500 × 2 =	33,000
・ワイヤレス受信機の購入	@	93,500 × 1 =	93,500
・デジタルステレオミキサーの購入	@	135,000 × 1 =	135,000
・デジタルパワーアンプの購入	@	151,200 × 1 =	151,200
・コンセントボックスの購入	@	32,400 × 1 =	32,400
・電子黒板機能付液晶プロジェクターの購入	@	288,805 × 1 =	288,805
・液晶ディスプレイの購入	@	172,700 × 1 =	172,700
・液晶ディスプレイ用スタンドの購入	@	30,580 × 1 =	30,580
・液晶ディスプレイ用取付金具	@	25,685 × 1 =	25,685
・ブルーレイディスクプレイヤーの購入	@	69,300 × 1 =	69,300
・タイルカーペットの購入	@	363 × 600 =	217,800

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。

